



● 2011年度(第9回) ドコモ市民活動団体への助成

【申込受付期間】平成23年3月31日(木)迄 ※必着
【助成対象】子どもたちの健やかな育ちを応援する活動を行う市民活動団体 ※詳しい応募条件などはホームページをご覧ください。
【助成金額】1件/50万円を標準とし、最高200万円まで申請可能(標準額を超える場合審査あり)
応募方法、その他、詳しくはホームページをご確認ください → http://www.mcfund.or.jp/modules/tiny2/?id=4
【問い合わせ】NPO法人 モバイル・コミュニケーション・ファンド(MCF)事務局
TEL : 03-3509-7651 FAX : 03-3509-7655 E-mail : info@mcfund.or.jp

● 平成23年度「街なか再生助成金」

【申込受付期間】平成23年3月31日(木)迄 ※締切日消印有効
【助成対象】街なかの再生に寄与する活動・事業 ※詳しい応募条件などはホームページをご覧ください。
【助成金額】1件/100万円(上限)
応募方法、その他、詳しくはホームページをご確認ください → http://www.sokusin.or.jp/machinaka/subsidy/23/subsidy.html
【問い合わせ】財団法人 区画整理促進機構 街なか再生全国支援センター (担当/木村)
TEL : 03-3230-8477 FAX : 03-3230-4514 E-mail : mail@sokusin.or.jp



● 2011年 全労済 地域貢献助成

【申込受付期間】平成23年3月16日(水)~平成23年4月4日(月)迄 ※当日消印有効
【助成対象】環境分野、または、子ども分野で活動する市民活動団体 ※詳しい応募条件などはホームページをご覧ください。
【助成金額】1件/30万円(上限)
応募方法、その他、詳しくはホームページをご確認ください → http://www.zenrosai.coop/zenrosai/topics/2010/100216.php
【問い合わせ】全労済 経営企画部内 地域貢献助成事業事務局 (担当/佐藤)
TEL : 03-3299-0161 FAX : 03-5371-2685 E-mail : 90_eco@zenrosai.coop

センターからのお知らせ



◎初午大祭 センター休館のお知らせ ▶ 2011年3月3日(木)・4日(金)
※会議室のご予約も出来ません。予めご了承ください。

書籍の森
閲覧図書三重県一を
私たちと一緒に
私たちが一緒に
目指しませんか?作るみんなの
書籍の森
ご協力ありがとうございます。
引き続き書籍の寄贈を募集中です。 NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

当センターは新たに生まれる市民活動団体に活用していただくため書籍リサイクル運動「書籍の森」を実施中です。あなたの本棚に眠る使用済みのNPO書籍を次の世代に役立ててください。
【募集書籍】
引き続き書籍の寄贈を募集中です。 NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

ちょこつと編集後記.....
当センターに新人さんが仲間入りしました。不慣れなところもあるかと思いますが、皆様よろしく願っています。本人が書いた“堅苦しい”ご挨拶はセンターのスタッフ日記(ブログ)でご確認くださいね。[S]

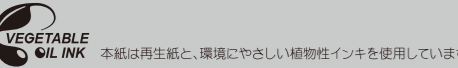
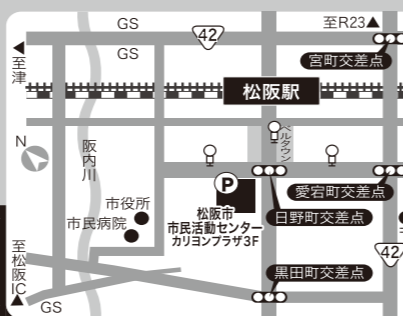
松阪発信! 市民活動の情報紙 アロマ
次号は2011年4月中旬以降の発行予定です。募集・イベント・事業案内など、共有したい情報をお持ちの方は、「アロマ掲載希望」の件名で「タイトル・趣旨・内容・日時・場所・問合せ先」などをご記入の上、松阪市市民活動センターまでE-mail かFAXにて送付してください。
次回の原稿締切は2011年3月31日(木)です。 担当/澤

松阪市市民活動センター 〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F 月曜~土曜日/10:00~22:00
松阪駅下車(JR側)、徒歩5分 カリヨンプラザ駐車場あり(屋上) 会議室利用時間に限り無料 ラウンジ利用は2時間まで無料

TEL 0598-25-3801(予約専用) 0598-26-0108 FAX 0598-25-3803 E-mail katsudou@ma.mctv.ne.jp

Table with 2 columns: 会議室 (大会議室, 小会議室) and 機材等 (印刷機, マイク). Includes pricing and booking information.

▼ 松阪市市民活動センターホームページ http://www.katsudou.com
▼ 市民活動情報サイト(登録団体の情報、会議室の空き情報) http://genki365.net/gnkm/customer/matsusaka/



〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F
開館 月曜~土曜日/10:00~22:00
TEL 0598-25-3801 (予約専用) 0598-26-0108
FAX 0598-25-3803
E-mail katsudou@ma.mctv.ne.jp

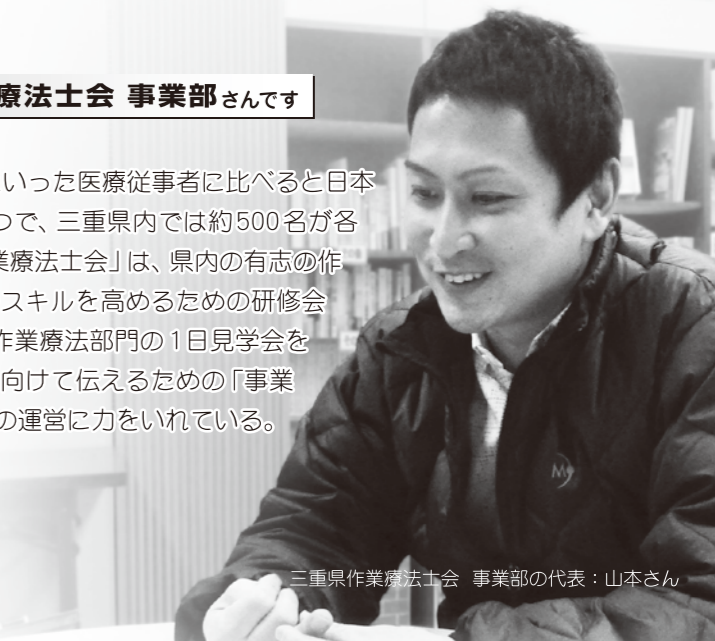
~アロマ~ No.33



今号は...三重県作業療法士会 事業部さんです

「作業療法士」という職種をご存じだろうか? 医師や看護師といった医療従事者に比べると日本での歴史は浅く、認知度こそ低い... 三重県内では約500名が各地の病院や介護老人保健施設などで活躍している。「三重県作業療法士会」は、県内の有志の作業療法士が集まり昭和60年に設立した職業団体... 20代後半のメンバー 20名が中心となり公開講座の運営に力をいれている。

歩く、服を着る、食事をする... 私たちは、そんな日常生活の些細な作業を“当たり前”にこなしているが、病気・先天的な障がい・老化など何らかの理由でそれらができない人も... 三重県作業療法士会 事業部の代表: 山本さん



視察したり、他の講座チラシを参考にするなど試行錯誤を繰り返して、独自講座の開催に至った。また、講座ではアンケートを実施し、講座に対する要望なども調査している。このアンケートから認知症・介護予防・発達障がいの3つのテーマについて特に関心が高いことがわかり、地域のニーズを再認識することもできたようだ。



※1: 特定高齢者とは...生活機能が低下し、介護が必要となる恐れのある高齢者のこと

事業部の主な活動は、年に2回程度、県内各地で開く公開講座の運営だ。公開講座は“作業療法士の知識や技術を伝達すること”を目的として、認知症やうつ病の予防、理解などをテーマに開催。毎回、100名を超える参加者があるという。事業部代表の山本泰雄(やまもとやすお)さんは「日々接する患者だけでなく、彼らをとりまく家族や地域の方々も各自に悩みや問題を抱えています。それらの人たちに私たちの知識を提供して地域に貢献したい、という思いが出发点でした」と語る。だが当初は、講座運営のノウハウはゼロ。広報活動、県や市といった公的機関への後援申請など、全てが手探りでスタートだった。しかし「なんとか成功させたい」との思いから、様々な講座に出向いて運営方法を

「地域のみなさんの声を知り、それに応えられることにやりがいを感じます」と山本さんは語る。高齢化、生活習慣病の増加、心の病気の多様化がすすむ現代社会では、個人にあつたより専門的な治療が求められている。こうした現状を踏まえ、「今後は講座で知識を伝えるだけでなく、介護方法や介護予防など実技についても伝えたい」、「認知症の人を地域で支える仕組みを作りたい」、「地域にもっと出向いて、一般の人により身近な存在になりたい」と意気込みをのぞかせる。一人一人の体と心を総合的にみて患者に向き合う作業療法士は、今後、より重要な役割を担っていくだろう。

【三重県作業療法士会 事業部】に関するお問い合わせは...
TEL: 059-349-2288 (ユマニテック医療専門学校内 三重県作業療法士会事務局)
URL: http://www.maidosoft.net/~mieot/

告知 募集

いせ・松阪・伊賀・津・なばり・四日市 イーパーツ

リユースPC寄贈プログラム

「パソコンがあれば活動の幅がもっと広がるのに…」というNPO、市民活動団体の皆様に耳寄りなお知らせです。今年も当センターでは「リユースPC寄贈プログラム」に参画します。この地区では5回目となる寄贈プログラムで、現在寄贈団体を募集中です! 「リユースPC寄贈プログラム」は、東京の「認定NPO法人イーパーツ」が主催する事業で、企業から使わなくなったパソコンを提供してもらい、初期化、再インストールを施し、再生したパソコンを無償で寄贈し、市民活動の情報化を支援するプログラムです。今回の参画地域は、伊勢市、明和町、松阪市、伊賀市、津市、名張市、四日市市です。寄贈の対象は各地域を拠点とし、「予算などの諸事情によりパソコンが購入できない」など、情報化が思うように進まない市民活動団体です。(営利団体、個人、学校、行政機関、自治会などは寄贈対象になりません) 松阪地区の団体は、当センターまでお問い合わせください。再生されたパソコンはまだまだ使えます。使い捨てが見直されている時代だからこそ、リユースパソコンが皆様の活動のお役に立てばうれしく思います。



寄贈団体の公募期間は

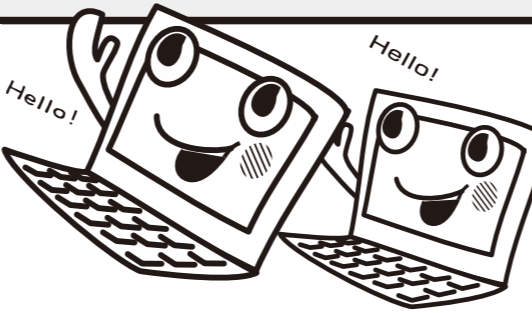
3月3日(木)まで!! (当日消印有効)

詳しい応募方法などは、お気軽にお問合せください。

TEL : 0598-26-0108 (担当/福井・中村)

当センターのホームページから詳しい内容はご確認ください。また、申請用紙もダウンロード可能です。

<http://katsudou.com>



登録団体さんからのお知らせ

富弘美術館を囲む会・三重さん主催

星野富弘

花の詩画展

開催のお知らせ

入場無料

2011年4月28日(木) ~ 5月4日(水) 9:00~17:00

松阪市文化財センター 松阪市外五曲町

TEL & FAX : 0598-86-3939 (小林佳子)

主催: 富弘美術館を囲む会・三重

後援: 三重県、三重県教育委員会、三重県教職員組合、松阪市松阪教育委員会、松阪商工会議所

【星野富弘】プロフィール
1946年、群馬県に生まれる。中学校教諭であった1970年、クラブ活動の指導中、頸椎を損傷し手足の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵を描き始め、1979年初の作品展を開催。以来、雑誌や新聞に作品やエッセイを連載するなど活動の幅は広く、1991年には創立星野富弘美術館を開館。現在も詩画随筆の創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開いている。



展示会に協力してくれるボランティアも募集中です!
興味のある方は、上記の電話番号に問い合わせてみてね。

代表/小林さんからのコメント

星野さんの詩画と向き合いますと、心がほのぼのとし、おだやかになります。また、突然の苦難を乗り越えられた歩み、生き方を詩画を通じて次世代を担う多くの子ども達に見ていただきたいと思います。連休中の開催ですので、是非、ご来場ください。

報告

【伝える力・スキルアップ講座】～あなたの「もっと伝えたい」、「もっと広めたい」を応援します～

「デザインの基礎」と「手作り感」で差がつく!

ワードで作るチラシ講座

を実施しました



2月4日(金)、当センター主催の「伝える力・スキルアップ講座」の一環として、「デザインの基礎」と「手作り感」で差がつく! 「ワードで作るチラシ講座」を実施しました。この講座は、昨年11月に実施した「パソコンに頼らないチラシ作り講座」のアンケート結果をもとに「チラシはワードで作りたいが、なんだか味気ない…」というお悩みに応えるために開催しました。そこで今回は「チラシ作りに使える便利なワードの知識と技術」の他、「デザインの基礎と手作り感」

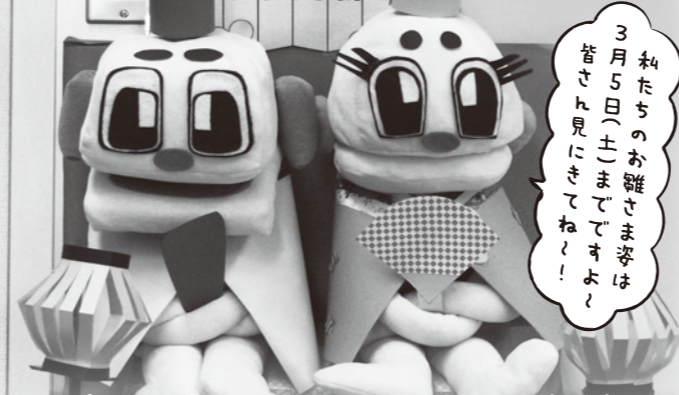
も学べる講座としました。講師は2名体制とし、「デザイン編」と「ワードの機能編」に分かれて専門的な技術とノウハウを伝えました。講座終了後、「普段とは違うワードの使い方が学べた」、「手作りの要素でこんなにチラシの表現が変わるんだ」と驚きの声もあり、参加者にとって有意義な講座となったようです。今後も当センターでは市民活動のお役に立てるような様々な講座を実施していく予定です。



今年も 松阪まちなか

お雛さま祭り

に参加しますよ～



3月5日(土)までです。皆さんに見てもらってね!!

もうすでにご覧いただいた方も多いかも知れませんが、今年もお内裏さまとお雛さま姿のマツ八君、ミライちゃんが皆様をお出迎えていますよ。期間は2月5日(土)～3月5日(土)まで。いなべ市、伊賀市、津市、松阪市、明和町、伊勢市の6会場を結ぶ「美し国三重ひな街道」との共同企画として、松阪会場では当センター登録団体であるミズ・ネットワーク松阪さんが中心となり開催しています。県内6会場のうち3ヶ所のスタンプを集めると、各会場の指定場所で記念品と交換できるスタンプラリー(各会場先着200名様限定)も開催中です。松阪会場では、町中100ヶ所にお雛さまが点在しており道行く人の目を楽しませています。また、市内3ヶ所のおもてなし処にて「ちょこっとプレゼント」がありますよ。是非、当センターにも足をお運びいただき、マツ八君とミライちゃんの晴れ姿を見てあげてください。

身近なCSRを探して vol.5



松阪地区木材協同組合 所在地: 松阪市木の郷町18

昨年12月15日、松阪地区木材協同組合が、明和町立曉幼稚園の子どもたちにログハウス風の遊具「あかねちゃんハウス」を贈りました。これは、中部経済産業局から助成を受けた、「あかね材(※1)」PRにまつわる地域貢献事業の一環として、あかね材で作られた木製遊具を松阪市近郊の幼稚園・保育園に贈る取り組みです。あかね材販路開拓推進委員の久保敦子(くぼあつこ)さんは「現代生活の中で子どもたちは「木」に接する機会が少なくなっています。木材遊具は子どもの感性・発想・想像性を刺激し、成長に好影響を及ぼすという研究結果もあります。遊びを通して木の手触りや温もりをたくさん感じてほしいですね」と語っていました。

※1: 「あかね材」とは…スギノアカネトラカミキリという昆虫が、木を食べた跡が残る木材のこと。構造や耐久の面では何も問題なく、エコブランドとして、注目を集めている。

地元産の「あかね材」で子どもたちが笑顔を